

インターネット環境を利用した教育相談支援プログラムの開発

(指導教員 世木秀明 准教授)
世木研究室 0731158 八重樫 謙太

1.はじめに

近年、学業不振、非行、いじめや不登校、発達障害、情緒障害などの問題のある幼児、児童、生徒に加えて成人の親からの教育相談が増えているといわれている。従来の教育相談では、プライバシーなどの問題から、FAXによるものが主であった。しかし、FAXによる教育相談は相談者が自由な書式で相談内容を記述することが多く、相談内容の分類も難しい。また、FAXを所持していないという家庭からは、相談できないという問題がある。

一方、近年インターネット環境も整いつつあり、携帯電話やパソコンを利用した電子メールによる情報交換も一般的になってきた。特に携帯電話の普及に伴い、親たちの携帯電話による相談が急増している。このようなことから、簡易的で利用に負担が少ないインターネット環境を利用した教育相談支援プログラムの開発が望まれている。

本研究では、このような背景をふまえ、インターネット環境を利用した教育相談支援プログラムの開発を目的とした。

2.教育相談支援プログラムの構成

本研究で開発した教育相談支援プログラムの構成を図1に示す。

教育相談を行う親や教師・保育士は、パソコンや携帯電話からインターネット環境を利用して教育相談支援サーバに接続し、相談対象者の性別や年齢などのプロフィール、選択肢による相談内容、自由筆記による相談内容、連絡先メールアドレスなどの入力を行う。相談者によって入力された相談内容は、データベースに保存される。

システム管理者は、相談者からの入力情報をデータベースから参照し、適切な相談対応者(相談スタッフ)を選定する。相談対応者は、相談者にメールにより連絡を取り教育相談(具体的な回答や様々な情報提供、支援などについて返信する)を行う。

本研究では、プログラムの開発にFlash CS3、ActionScript、およびPHPを使用した。また、データベースにはMySQLを使用した。

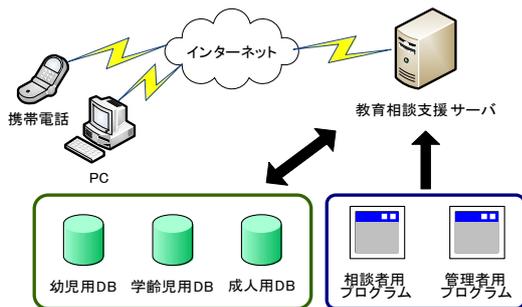


図1 教育相談支援プログラムの構成

3.教育相談支援プログラムの概要

本研究で開発した教育相談支援プログラムの相談者用プログラムは表1に示す3種類の内容で構成されている。

表1 相談者用プログラムの内容

種類	相談項目
幼児版 (0~5歳)	発達の遅れ、問題行動 友だち関係・集団参加、不登園
学齢児版 (6~15歳)	発達障害、知的障害、不登校 いじめ、学校や学習での不適応 心の相談
成人版 (16歳以上)	発達障害、知的障害、心の相談

図2に相談者が入力した相談内容を管理者プログラムにより表示した画面例を示す。相談内容は新着順、年齢別でソートして表示することができる。また、キーワードによる検索も可能である。システム管理者は、この画面により相談者からの入力情報を参照し、適切な相談対応者を選定する。

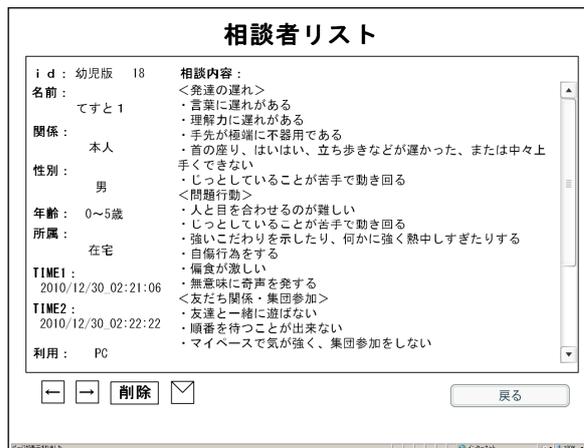


図2 管理者用プログラム画面例 (相談内容の表示)

4.まとめ

本研究で開発した教育相談支援プログラムを教育相談、発達相談、特別支援教育の専門家に試用してもらい、次のような意見をいただいた。

- ・パソコンだけでなく携帯電話からもアクセスして相談を行うことが可能なので非常に有用である。
- ・FAXよりもパソコンや携帯電話の普及率の方が大きいので、今後の教育相談のスタンダードとなると考えられる。
- ・記述された情報の漏洩防止などセキュリティ管理の検討を十分に行う必要がある。

これらのことから、本研究で開発した教育相談支援プログラムは、教育相談の方法の多様化・充実に有効であると考えられる。